

“危険なお散歩” していませんか？

～パパ・ママに知ってほしい「おでかけベビー用品」の思わぬリスク～

夏休みシーズンは、親子でおでかけする機会も増えてきます。そんな子どもとの外出時にパパ・ママにとって頼りになるベビーカーや抱っこひもですが、誤った方法で使用すると事故につながるおそれがあります。ベビーカーでは、空気を入れすぎたタイヤ^{※1}が破裂してけがをしたり、抱っこひもでは、子どもが落下して重傷を負ったりする事故が起きるおそれがあります。外出時に子どもの事故を防ぐために、保護者は使用前に製品をきちんと点検し、製品を使用する際の注意点やリコール情報を確認することを心がけ、正しく使用してください。

使い慣れた「おでかけベビー用品」であっても、一瞬の油断や慣れが子どもが負傷する大きな事故につながることもあります。今一度、「おでかけベビー用品」の使い方をチェックして事故を未然に防ぎ、安全なお散歩を楽しみましょう。



撮影協力：兵庫県警科学捜査研究所



【実験写真】使用者の空気の入れすぎによりタイヤが破裂し、車輪の破片が飛散

事故事例

- ・ベビーカーのタイヤが破裂して、軽傷を負った。
- ・停車中のベビーカーに体が触れて動き出し、階段から転落して、子どもが負傷した。
- ・ベビーカーを開く際に、子どもがベビーカーで指を挟み、負傷した。
- ・抱っこひもで子どもを抱っこしていたところ、子どもが落下し、負傷した。

■事故防止のポイント

○保護者は、取扱説明書を確認し、「おでかけベビー用品」の誤った使用方法による危険性を認識する。使用前に製品に不具合がないか点検する。

○持っている製品がリコール対象でないか確認する。

【ベビーカーのポイント】

○タイヤに空気を入れるタイプのもは、タイヤに空気を入れすぎない。

○不安定な場所に置かない、目を離さない。停止時はストッパーを掛ける。

○折りたたみ部等への人体の挟み込みに注意する。

○段差や溝に注意して操作する。

【抱っこひものポイント】

○抱っこひもを正しく装着し、子どもが正しい体勢になっているか確認する。

(※1) タイヤに空気を入れるタイプのもの

1. 事故の発生状況

1-1. 子どもがけがをした事故の年度別発生状況

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE（ナイト））が収集した製品事故情報のうち、2017年度から2021年度に発生した、子ども（14歳以下）がけがを負ったベビーカー及び抱っこひもの事故^{※2}14件の年度別の事故発生状況を図1に示します。

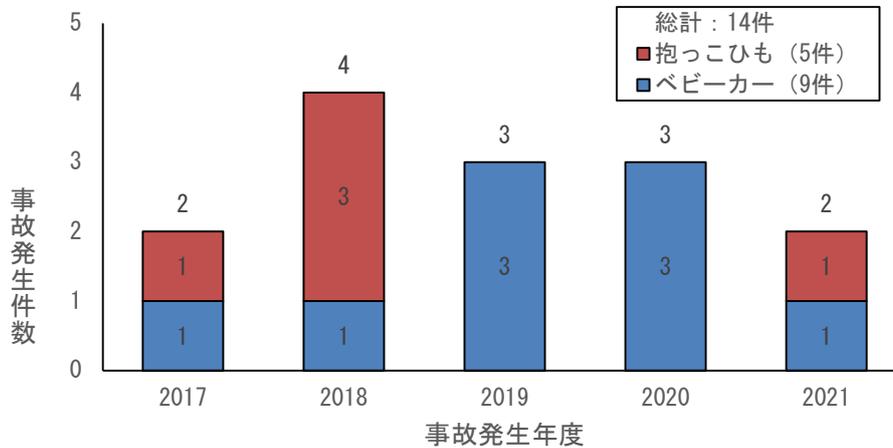


図1：年度別の事故発生状況

(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

1-2. 年度別の被害状況

2017年度から2021年度に発生した、子どもがけがを負ったベビーカー及び抱っこひもの事故14件の年度別の被害状況を表1に示します。

表1 ベビーカー及び抱っこひもの事故14件の年度別の被害状況

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	総計
重傷	1	2	2		2	7
軽傷	1	2	1	3		7
総計	2	4	3	3	2	14

2. 事故事例と事故を防ぐポイント

(1) ベビーカーのタイヤ破裂事故

事故発生年月 2022年4月（現在調査中）

【事故の内容】

ベビーカーのタイヤが破裂して、軽傷を負った。原因を調査中。

【事故の原因】

現在調査中。

(2) ベビーカーの転倒事故

事故発生年月 2018年4月（新潟県、0歳7ヶ月、重傷）

【事故の内容】

ベビーカーに乳児を乗せていたところ、転倒し、負傷した。

【事故の原因】

使用者がベビーカーのストッパーのロックを掛けずに階段上の玄関ポーチに停止し、ドアを施錠しようとした際、身体がベビーカーに当たったことで、ベビーカーが動いて、階段から落ちて、転倒したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「ベビーカーを停止させているときには必ずストッパーのロックを掛ける。」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード】（SAFE-Lite についてはP7 参照）

ベビーカー、転倒

(3) ベビーカーでの挟み込みによる事故

事故発生年月 2015年4月（徳島県、1歳、重傷）

【事故の内容】

ベビーカーを開く際に、ベビーカーで子どもが指を挟み重傷を負った。

【事故の原因】

子どもがベビーカーの折りたたみ部に手を掛けていることに気が付かず、ベビーカーを開いたため、子どもの指が折りたたみ部に挟まり、さらに挟まった指を無理に引き抜いたために負傷したものと考えられる。

なお、本体及び取扱説明書には、「開閉操作は、子供の手指などを挟まないよう、子供が接触した状態では行わない。」旨、表記されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

ベビーカー、挟み込み

(4) 抱っこひもからの転落

事故発生年月 2017年6月（兵庫県、0歳3ヶ月、重傷）

【事故の内容】

抱っこひもを使用して子どもを抱っこしていたところ、子どもが落下し、頭部を負傷した。

【事故の原因】

保護者が子どもを抱っこひもの上部から挿入した際に両脚が片方の脚を通す穴に入り、子どもの体が抱っこひもからすり抜けた可能性が考えられる。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

抱っこひも、落下



外出時に子どもの事故を防ぐ

○保護者が正しい使い方、危険性を認識する。製品を点検する。

保護者自身が製品の使い方や誤使用の危険性を認識することが重要です。取扱説明書を確認して危険性を認識し、危険な部品や場所から子どもを遠ざけたり、安全に配慮した製品を使ったりするなどして、子どもを事故に巻き込まないようにしましょう。

また、定期的に点検して、異常がないか（破損がないか、固定が緩んでいないかなど）確認して、異常がある場合には取扱説明書を参考に、正しい処置を施すようにしてください。

○ベビーカーのタイヤに空気を入れるときは指定された空気圧を超えて空気を入れない。コンプレッサーの使用に注意する。

ベビーカーのタイヤに空気を入れすぎるとタイヤが破裂し、飛散した破片によってけがを負うおそれがあります。タイヤには、適正空気圧が指定されています。空気を入れる際は、指定された空気圧を超えて空気を入れないでください。特にコンプレッサーを使用して空気を入れると、短時間でも空気の入れすぎになることがあるため、注意が必要です。空気圧を確認しながら、少しずつ空気を入れるようにして下さい。

空気圧の目安を知るには、空気圧計が付属した空気入れを使う方法などがあります。また、空気圧計が付属していない空気入れを使う場合には、手で押してタイヤが少しへこむ程度まで空気を入れることを目安としているメーカーもあります。



ベビーカータイヤの適正空気圧表示（例）

空気圧の単位について

タイヤや空気圧計に表示されている空気圧には、複数の単位が使われています。

製品によっては、複数の単位で併記している場合もありますが、知りたい単位での記載が無ければ換算する必要があります。主に使用されている単位と換算値を以下に示します。

$$\begin{aligned} 100 \text{ kPa (キロパスカル)} &= 1.0197 \text{ kgf/cm}^2 \\ &= 1 \text{ bar (バール)} \\ &= 14.223 \text{ psi} \end{aligned}$$



空気圧計で表示されている単位

参考：適正空気圧の例

- ・軽快車（いわゆるシティ車）のタイヤ：300kPa 程度
- ・ベビーカーのタイヤ：200kPa 程度

○ベビーカーを不安定な場所に置かない、目を離さない。停止時はストッパーをかける

ベビーカーは、ぬかるみや傾斜地などの不安定な場所に置かず、なるべく水平な場所に置くようにしてください。やむをえず傾斜地に留め置くときだけでなく、水平な場所でも、必ずストッパーを左右とも掛けてください。子どもが動くなどして、ベビーカーが動いたり、転倒するおそれがあるため、ストッパーを掛けていても、ベビーカーに子どもを乗せた状態で目を離さず、必ず持ち手などに手を添えてください。正しい使用方法については以下のリンク先からご確認ください。



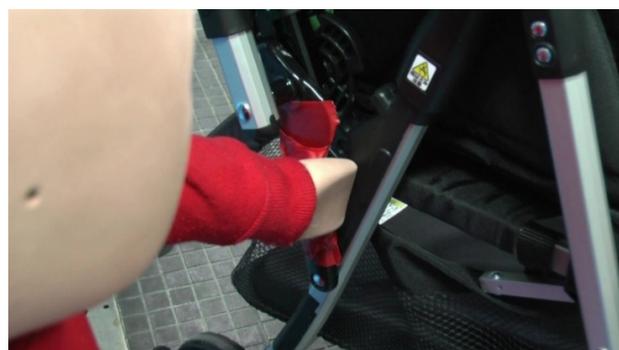
不安定な場所での転倒

ベビーカー安全協議会 <http://ikuji-tokyo.com/babycar/>

○ベビーカー開閉時の挟み込みに注意する

子どもが近くにいるときは、ベビーカーの開閉に注意してください。子どもがベビーカーに触れているときに、折りたたんでいたベビーカーを開いたりすると、隙間に子どもの指などが挟まれるおそれがあります。

ベビーカーを開閉する際には、子どもがベビーカーに触れていないか確認しましょう。



ベビーカーの折りたたみ部に手を挟まれる

○段差や溝に注意して操作する

ベビーカーの車輪が路面の段差、側溝の蓋の穴や溝などに引っかかったり、はまったりすると、転倒につながるおそれがあります。走行する路面の状態を確認すると共に、段差や溝がある路面を通過する必要がある時は、注意しながらゆっくり操作しましょう。

○抱っこひもの装着は正しいか確認する

抱っこひもで子どもを抱く際は、素手で抱くときと同じような位置で抱き、バックルの装着やひもに緩みがないか確認してください。抱っこひもは、あくまでも抱っこを補助するための製品です。正しい使用方法については以下のリンク先からご確認ください。



緩くなっていると落下のおそれ

抱っこひも安全協議会 : <https://dakkohimo.jp>

3. リコール製品による事故を防ぐ

事故発生を受けてベビーカーを対象とするリコールが行われています。

事故発生年月 2021年2月（神奈川県、年齢性別不明、軽傷）

【事故の内容】

ベビーカーのフレームが破断し、乳幼児が軽傷を負った。

【事故の原因】

ベビーカー製造時にフレームに微細な亀裂が入っていたため、使用に伴い亀裂が進展して破断したと考えられる。

なお、輸入事業者（ピジョン株式会社）は、2021年4月より、無償修理を実施している。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

ベビーカー、リコール

ベビーカーに限らず、お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認していただき、事故を未然に防ぎましょう。リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者の確認や相談をしてください。

リコール情報を確認する

NITE が公開している iPhone®向けアプリ『NITE AR-Shot (ナイト アルショット)』を使用することによって、製品のリコール情報をスマートフォンのカメラ機能を使って調べることができます。



右記 QR コードからも
ダウンロードいただけます→



- ・ダウンロード URL :
【iOS】 <https://apps.apple.com/jp/app/nite-ar-shot-アルショット/id1615703231>
- ・アプリ名称 : 「NITE AR-Shot」 (ナイト アルショット)
- ・アプリ公式サイト : <https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/ar-shot.html>
- ・対応 OS : iOS ※動作推奨環境 iOS ver.15 以降
- ・対応言語 : 日本語

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/index.php>



一般消費者用検索ツール「SAFE-Lite」のご紹介

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite (セーフ・ライト)」のサービスを行っております。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 古田 英雄
担当者 製品安全広報課 山崎 卓矢、岡田 有毅

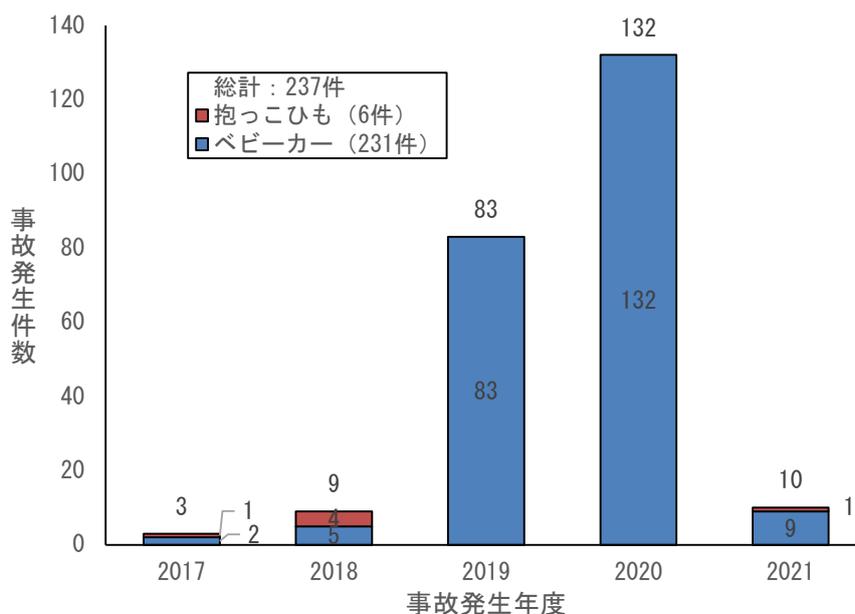
Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

参考情報

ベビーカー及び抱っこひもの年度別の事故発生状況（全件（人的被害、物的被害））

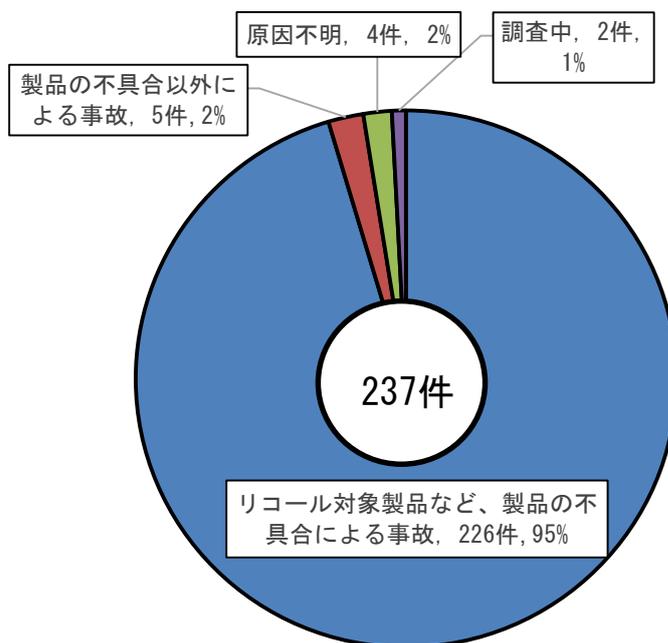
N I T Eが収集した製品事故情報のうち、2017年度から2021年度に発生した、ベビーカー及び抱っこひもの事故237件の年度別の事故発生状況を以下に示します。2021年4月及び5月にベビーカーでリコールが行われており、特に2019年度から2020年度の事故はほとんどが同リコール対象製品による事故となっています。



図：年度別の事故発生状況

ベビーカー及び抱っこひもの原因別の事故発生状況

2017年度から2021年度に発生した、ベビーカー及び抱っこひもの事故237件の原因別の事故件数を以下に示します。そのほとんどはリコール対象となった製品による事故となっています。



ベビーカー及び抱っこひもの事故の原因別事故件数

年度別の被害状況

2017年度から2021年度に発生したベビーカー及び抱っこひもの事故237件の年度別の被害状況を以下に示します。

表 ベビーカー及び抱っこひもの事故237件の年度別の被害状況

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	総計
重傷	1	2	2		2	7
軽傷	1	2	1	5		9
製品破損	1	4	80	127	8	220
なし(ヒヤリハット)・不明		1				1
総計	3	9	83	132	10	237